

市協
山特
岡ク
タク

当面静観の構え

交通空白地解消に意欲

(石井繁次専務理事) 考え 待感が少なからずあり、こ
こ1〜2年が山」とし、昨

岡山市交通圏では中型車 年12月に運賃改定を実施し
の日車営収で2万円前後、 「やっと落ちて着いてきた段
実働率で70%割れの状態が 階」との認識を示している。
続いているという。適正台 多くの事業者が準特地域に
数は上限が1226台、下 とどまったまま今後の情勢
限が1090台。16年3月 を見極めたいと考えたよう
末のタクシー台数は165 だ。

7台で適正台数の上限に対 活性化については、2日
し35・1%の供給過剰に陥 に岡山県庁で開かれた交通
っている。 空白地に関する説明会に参

それでも今回、特定地域 加。梶川会長は「お互いが
指定に同意しなかった現状 知恵を出し合い、空白地の
認識について梶川会長は 解消に取り組んでいき
「岡山では景気回復への期 い」としている。

岡山市タクシー準特定地 5社237台、不同意19社
域協議会(会長||梶川政文) 1533台という結果で判
東和タクシー社長)は6月 断した。

21日、特定地域の指定に同 協議会事務局の岡山県タ
意せず、準特定地域にとど クシー協会(梶川政文会長)
まることを岡山運輸支局に によると、25日に倉敷交通
報告した。事前調査で同意 岡タクシー特定地域協議会

の開催を控えているため、
その終了後に「岡山での協
議会開催、適正化策、活性
化策の検討に着手したい」